

学級活動（１） 指導案参考例

学級活動指導案

※評価に関する参考資料が公表されていないため、従来の形をもとに、令和2年2月現在の情報を加味して作成している。

(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

議題名 (X) → 議題 (O)

令和 年 月 日 () 第 校時
第 学年 組 指導者 ○○ ○○

1 議題 ○○○をしよう

2 評価規準と目指す児童(生徒)の姿

○1単位時間ごとに「評価規準」を作成せず、学校で低・中・高学年別に作成したものをそのまま掲載する。話し合い活動、係活動、集会活動の形態別に示すことも考えられる。

観点	よりよい生活や人間関係を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
評価規準	学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	学級や学校の生活を良くするための課題を見いだすことができる。課題解決に向け、話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	学級や学校人間における関係を良くし、他者と協働しながら課題の高揚を図ろうとしている。
目指す○○の姿	<p>○学習指導要領の目標及び特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、各学校が特別活動共通の評価の観点 () の部分) を定めることとなっている。</p> <p>○学級活動(1)の評価規準〔学校として見定めた評価の観点ごとに、発達の段階に即して設定した評価規準〕を踏まえ、本議題のねらい、内容に即して、十分満足できる活動の状況を、「目指す児童(生徒)の姿」として記述する。丁寧に「計画委員」、「話し合い」、「集会活動」などに分けて記述することも考えられる。</p> <p>○「目指す児童(生徒)の姿」は、観点ごとに記述する。事前、本時、事後の活動全体を通して、各観点をバランスよく設定することが望ましいが、必ずしも本時の中で全ての観点を評価する必要はない。例えば、事前で「思考・判断」を、本時で「知識・技能」と「思考・判断」を、事後に「表現」と「主体的態度」を中心に評価することも考えられる。</p>		

【参照】

「評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校・中学校 特別活動 H23. 11)」国研
「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料(小学校 H23. 6・中学校 H23. 12)」県教委

3 議題について

- 児童(生徒)自らが「学級や学校の生活づくり」について問題を見だし、計画・実践する実践的態度についての現状を記述する。
- 議題が選定された背景やこの議題を学級全体が取り組むことで、学級や学校生活がどのように向上し、児童(生徒)一人一人にどのような態度が身に付くことが期待できるかについて、教師の願いや指導観等を記述する。
- (1)(2)(3)がそれぞれ関連し合うように記述する。

(1) 児童(生徒)の実態

- 児童(生徒)の学級生活における実態や、これまでの学級活動の取組やその状況を具体的に記述する。
- 当該学年の評価規準から、話し合い活動における課題や目指す方向などについて記述する。

(2) 議題選定の理由

- 取り上げる議題の内容、今まで取り組んできたこととの関連、その議題を取り上げる意義、議題と児童(生徒)との関連などについて具体的に記述する。
- 評価との関わり(それまでの話し合い活動の取組、本時の活動を見取る観点など)について記述する。

(3) 指導観

- 議題のねらいや児童(生徒)の実態を踏まえながら、ねらいを達成するための指導や支援の手立てなどについて、指導の流れに沿って具体的に記述する。
- 議題やねらい、活動に応じて、教材・教具、資料の選択、グループ活動や事前・本時・事後の活動、様々な表現の場づくりなどを具体的に示すような記述に努める。

4 学校課題(研究主題)との関連

○学校課題と関連がある場合は、学校課題(研究主題)に迫るための授業の組立や指導の重点、具体的な手立てなどを議題レベルでまとめる。

5 人権教育の視点

○本時のねらいや学習内容、指導方法と「育てたい資質・能力等」との関わりを記述する。

6 生かしたい児童(生徒)

○学習指導案参考例のP.33の7(5)、P.37の7(5)参照。

7 他の教育活動との関連

○特に関連のある教育活動や体験活動、日常生活との関連について記述する。

8 活動及び指導と評価の計画

○本時だけでなく、事前、事後の活動も記述する。

※参照：平成23年度芳賀の教育Q&A

Q4「学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。」

	日時 【活動形態】	児童(生徒)の活動	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿 と評価方法
事前準備	○/○(○) (昼休み) 【計画委員会】	<p>○以下のような「議題の発見」から「振り返り」までの全員の活動が特任委員会の活動について記述する。</p> <p>○「朝や帰りの会など、どの時間で行う予定か」(日時)や「計画委員の活動か全員の活動か」(活動形態)なども記述</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活向上に関わる諸問題を見付け、提案をする。 実態、学級経営の充実などの観点から議題を選定する。 議題や提案理由を知って、各自が意見をもつ。 話合いの柱や順番などを見定め、活動計画を作成する。 	<p>○以下のように、児童(生徒)が左の活動を行う上で、何をどのように工夫したり配慮したりするかなどを記述する。</p> <p>○指導者の立場で書く。準備物や具体的な手立てを記述する。</p> <p>○事前や事後の活動については、回数(日時)に応じて区切り線を入れそれぞれ記述する。</p>	<p>○評価規準に即して、一連の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。</p> <p>○事前・本時・事後の活動の中で、どのように目指す児童(生徒)像が位置付けられているかが分かるように記述する。</p> <p>○以下のような評価の例が考えられる。</p> <p>【主体的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○○○○への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。〔学級会ノート〕 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案理由を踏まえ、よりよい活動になるよう自分の考えをノートに書いている。〔観察、学級会ノート〕
本時	○/○(○) (第○校時) 【学級全員】	<p>【学級会(1)】 〔集団討議による 集団としての合意形成〕</p>	<p>※「(2)本時の展開」参照</p>	<p>※「(2)本時の展開」参照</p> <p>○太線で囲むなどして、本時の位置付けを明確にする。</p>
事後	実行	<p>○/○(○) (第○校時) 【学級全員】</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとに準備をする。 集会活動を行う。 	<p>・○○の児童には、○○の助言や励ましを行い、よりよく実行できるようにする。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 合意形成したことをもとにみんなで協力し、責任を果たして計画的に活動している。〔観察・努力カード〕
	振り返り	<p>○/○(○) (第○校時) 【学級全員】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級全体や個人としてよかったこと、改善点などについて話し合い、次の活動に生かす点を明らかにする。 	<p>・○○の視点を与え、よかった点と問題を次に生かす点を明らかにすることができるようにする。</p>	<p>【主体的態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自他のがんばりや問題について考え、次に生かす点を明らかにしている。〔観察・振り返りカード〕

9 本時の展開

(1) 本時のねらい

- 提案理由を踏まえた話し合いを展開するために本時の活動で特に留意する点を考え、簡潔に記述する。
- 観点別に、一つないし二つ程度のねらいを記述する。
- 評価規準・本時における目指す児童(生徒)の姿との関連を図り記述する。

(2) 本時の展開

- 本時の展開は、実態に応じて児童(生徒)が作成した活動計画(手書き)をそのまま活用してもよい。
- 教師が作成した指導計画を示す場合は、「児童(生徒)が作成した活動計画」を、別に添付するとよい。
- 展開や指導上の留意点を読んで児童(生徒)の活動が把握できるように、できるだけ具体的に記述する。
- 指導上の留意点に教師の指導・支援を記述する。その際、児童(生徒)の学習活動への働きかけやその手立て、助言などを具体的に記述する。
- 特に支援したい児童(生徒)については、「6 生かしたい児童(生徒)」との整合性を図り、具体的な手立てをして指導・支援ができるよう記述する。
- 評価は、評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。

○児童(生徒)が作成した活動計画(例)
○次ページ「※2 児童の活動計画例
(児童の考えた活動計画)」参照。

第 回 学級活動(話し合い)の計画 令和 年 月 日 () 第 校時	
議題	〇〇〇をしよう
提案理由	※教師とともにつくった提案について書く。
役割分担	※司会、黒板記録、ノート記録、提案者などの児童(生徒)名を記入する。 (一般的に、中学校では、議長、黒板書記、ノート書記という名称を使っている。)
話し合いの順序	時 間 気をつけること
1 はじめのことば	<p>○計画委員の児童(生徒)が、進行に即して気をつけることを記述する。あらかじめ「学級活動(話し合い)の計画」の様式を決め印刷しておき、児童(生徒)が書き込めるようにしておくことよい。</p> <p>○児童(生徒)が作成した活動計画を使用する場合には、教師の「指導上の留意点」が記述されていないため、(3)として新たに項立てをして別に記述することになる。</p>
2 計画委員の紹介	
3 議題・提案理由の確認	
4 話し合い	
①〇〇をどうするか	
②〇〇を決めよう	
5 決まったことの発表	
6 先生の話	○次ページ「※1 板書計画例(児童の考えた板書計画)」参照。
7 おわりのことば	○教師が作成した指導計画(例) ○項立てについては、児童(生徒)が作成した活動計画に「指導上の留意点」「目指す児童(生徒)の姿と評価方法」を組み合わせることも考えられる。

話し合いの順序	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿と評価方法
1 はじめのことば	<p>○「(2) 本時の展開」において「教師が作成した指導計画」を示す場合、「指導上の留意点」は、話し合いの流れに即して、丁寧に示すことも考えられる。</p> <p>○教師が、児童(生徒)の実態を踏まえ、活動を見守りながらも、よりスムーズに深まりのある話し合いができるようにするための助言などを記述しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇の状況(場面では)になったら、〇〇の助言をする。(収束の道筋に即した助言等) ・〇〇の児童(生徒)には、〇〇の指導をする。(個に応じた助言等) 	<p>○評価規準に即して、本時の展開における「目指す児童(生徒)の姿」を示しておく。</p> <p>○「十分満足できる活動の状況」を的確に見取るため、具体的な児童(生徒)の姿をいくつか想定しておくようにする。</p>
2 計画委員の紹介		
3 議題の確認		
4 話し合い		
①〇〇をどうするか		
②〇〇を決めよう		
5 決まったことの発表		
6 先生の話		
7 おわりのことば		

(3) 指導上の留意点

○「(2) 本時の展開」において「児童(生徒)が作成した活動計画」のみを活用する場合は、(3)として「指導上の留意点」を新たに項立てして記述する。その際、「教師が作成した指導計画」を「(3) 指導上の留意点」として丁寧に示すことも考えられる。

- ・〇〇状況(場面では)になったら、〇〇の助言をする。(収束の道筋に即した助言等)
- ・〇〇の児童(生徒)には、〇〇の指導をする。(個に応じた助言等)

10 事後指導

- ・見通しをもった計画的な活動、継続的な努力、役割や責任を果たすこと、よりよい人間関係を築くことなどができるようにするために〇〇〇をする。など
- ・振り返りを通して成果が実感できるようにし、「自分(たち)もやればできる」という達成感が味わえるようにする。 など

※児童の活動計画例（児童の考えた活動計画 ※手書き）

ぎだい	ハッピーパーティーをしよう。 11月20日(金) 2時間目			第3回 5年2組 学級会 9月14日(水)			
ていあん りゆう	12月に、みんなと楽しい思い出をつくりたいと思ったから		ていあんしゃ さん	議題	クラスの出し物を考えよう。		
やくわり ぶんたん	し会 さん さん	こくばん記ろく さん さん	ノート記ろく さん	提案理由 (提案者)	クラスがもっと一致団結できるように。 ()		
きまってること	日じ : 12月4日 ばしょ: 教室 かつどうの数: 3つ (みんなのできること)			司会	・司会をする。		
はなしあいの じゅんじよ	気をつけること			副司会	・司会を助ける。 ・進行状況をチェックする。		
1 はじめのことば	・いろいろな人がはっぴょうできるようにする。			黒板書記	・黒板に記録する。 ・決まったことを色分けする。		
2 やくわりしようかい	・いけんが出ないときは			ノート書記	・板書事項をノートする。 ・決まったことを発表する。		
3 ぎだいのかくにん	はっぴょうする。			話し合いの流れ	担当者	時間	気をつけること
4 ていあんりゆうのはっぴょう				①始めの言葉	司会	10秒	かまないで、はっきりはきはき言う。
5 はなしあい はしら①(20)分				②歌・ゲーム		5分	UFOゲーム
みんなが楽しめるために、 何をするか。				③議題の確認	司会	20秒	考えるように言う。
はしら②(15)分				④提案理由の確認	提案者	50秒	ていねいに言ってもらおう。
どんなかかりが いるか。				⑤提案者への質問	司会	1分	あったら聞く。
6 きまったことのはっぴょう				⑥話し合う内容 ・順序の確認	副司会	1分	黒板を見ながら確認する。
7 はなしあいのふりかえり				⑦話し合いの めあての確認	司会	40秒	優しい気持ちで反応しよう。
8 先生のはなし							
9 おわりのことば							

【参照】

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）（リフレット H30.7・指導資料 H30.12）」国研

「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）（リフレット H25.7・指導資料 H26.6）」国研

「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」（リフレット H26.6・指導資料 H28.3）国研

【芳賀教育事務所 芳賀の教育 Q&A 集 特別活動 平成23年度 Q&A より】

「Q4『学級活動の1単位時間の指導計画(学習指導案)を作成する際に、どのようなことに留意すればよいか。』」

「Q5『学級活動(2)に社会的スキルを身に付ける活動を取り入れる際に、どのようなことに留意すればよいか。』」

「評価規準の作成のための参考資料、評価方法等の工夫改善のための参考資料(小学校・中学校 特別活動 H23.11)」国研

「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料(小学校 H23.6・中学校 H23.12)」県教委